



毎月第3日曜は「家庭の日」

子育てにおいて家庭が果たす役割は大変重要です。そこで、家族のきずなを大切にする日として、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、併せて月別の取組みテーマを提案しています。

- 4月「社会のルールやマナーを身につける」
- 5月「家族と一緒に過ごす時間を増やす」
- 6月「家族みんなで自然に親しむ」
- 7月「夏休みの交通事故や水の事故、子どもの非行を防ぐ」
- 8月「地域の人々とふれあい、交流を深める」
- 9月「お年寄りを敬い、お互いを思いやる」



山形県青少年育成県民会議の活動について御理解と御協力をお願いします！

地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会

2月13日(木)に県庁講堂にて「地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会」を経済産業省の補助金事業である「インターネット安全教室」を活用して開催しました。



この事業は、青少年に対する情報モラル・セキュリティ教育の普及のために教育・啓発活動のできる指導者の育成等を目的に全国で実施されており、当日は、県内の青少年育成ボランティアや関係機関の職員など66名の方が参加し、講師のインターネット安全教室事務局の宮川麻子氏から、子どもたちへの授業を想定した教材の活用方法や模擬授業、グループワークなどを通じて、子どもたちに伝えるべきポイントなどを学びました。

講師の宮川氏は、これまでの情報モラル・セキュリティ教育は、危険回避や安全教育の側面が強かったが、これからは、子どもたちが自ら情報社会に参画していく態度を育む方向に変わっていくのではないかと話されました。

青少年のための環境づくり懇談会

11月27日(水)に県庁講堂にて青少年の健全な環境を整えるため、「令和元年度青少年のための環境づくり懇談会」を開催しました。はじめに県の各担当者から、少年補導、いじめの現状などの報告や質疑等の後、今後の青少年の環境づくり申し合わせ事項が承認、決定され、関係業界がこれに基づき、青少年を取り巻く環境の浄化に取り組むことを申し合わせました。



インターネットの約束ふれあいイベントでの広報啓発活動

2月16日(日)にイオンモール山形南店において、「インターネットの約束ふれあいイベント」を開催しました。県警本部が主催し、関係機関、団体が参加して、インターネットの適切な利用に向けた広報・啓発を行いました。



山形県青少年育成県民会議のホームページがリニューアルしました。

これまでのホームページをリニューアルし、山形県青少年県民会議の概要や事業内容のほか、相談窓口の案内ページなども設けました。スマートフォンにも対応しておりますので、QRコードを読み取っていただくと、ホームページが直接開けます。これまでの活動も掲載しておりますので、ご覧ください。



山形県青少年育成県民会議入会のお願い

当会議では、次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動や「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動を展開しています。活動や趣旨にご賛同・ご協力いただける新規会員の方を募集しております。機関誌をご覧くださいいただいている皆様からも、ぜひお声がけをお願いいたします。



☆会員の種類と会費

- ・特別会員(1口3万円)
- ・賛助会員(1口5千円)
- ・団体会員(1口1千円)
- ・個人会員(1口1千円)



問合せ・申込み先

山形県青少年育成県民会議事務局
(県若者活躍・男女共同参画課内)
TEL: 023-630-2727
FAX: 023-632-8238

見守る目・育む芽 42

目次

- P2 令和元年度「輝けやまがた若者大賞」受賞者のご紹介
- P3 県民運動 各地区実践レポート(特集:児童・生徒と地域の大人の対話会)

P4 お知らせ



大人が変われば 子どもも変わる

- 1 あいさつ・見守り運動**
○オアシス(おはよう、ありがとう、失礼します、すみません)運動等
- 2 モラル・マナーの向上運動**
○ゴミ・空き缶・吸殻を捨てない、拾う、持ち帰る等
- 3 子どもを事故や犯罪等から守る運動**
○地域の危険箇所の点検や子ども達のたまり場の見回り等



いじめ・非行をなくそう やまがた県民運動

運動の基本方針

- ◎学校、家庭、地域が連携し、みんなでいじめ・非行を許さない社会づくりをすすめていこう。
- ◎いじめを受けて悩んでいる子どもたちが相談しやすい環境をつくっていこう。

いじめはしない!させない!見逃さない!



～「春のあんしんネット・新学期一斉行動」を実施しています～

2月～5月



近年、スマートフォン等のインターネット接続機器の利用が急速に進み、多くの子ども達がSNSやオンラインゲーム等を利用するのが当たり前になっています。その一方で、長時間利用による生活習慣の乱れや、不適切な利用により犯罪の被害者や加害者となったり、いじめや自画撮り被害などのトラブルに巻き込まれるなど、深刻な問題も発生しています。

県教育庁が令和元年度に実施した全小中学生を対象とするICT機器の使用状況及び学校における指導状況の定期調査(後期)によると、インターネットに接続できる機器の所有率は小学生で71.4%、中学生で92.6%まで普及しているものの、そのうち有害サイト等への接続を防ぐフィルタリングを「している」「しているものとしていないものがある」と回答したのは小学生で41.9%(1年生を除く)、中学生で51.0%と設定率が低い状況になっています。

そこで、毎年多くの子どもたちが初めて自分専用のスマートフォン等を手にする進学・新入学の時期(2月～5月)に重点を置き、国や県の関係機関などが連携してスマートフォン等の安全・安心な利用のための働きかけを行っています。

家庭での積極的な取組みと見守りが子ども達を守ります。まずは、保護者が率先して子どもと話し合い、フィルタリング設定や家庭内でのルール作りに取り組みしましょう。

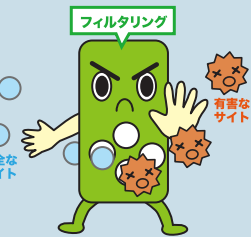


お子様の携帯電話にはフィルタリングの設定を!!

フィルタリングは、有害・不適切なアプリの利用を制限し、お子様の年齢や発達段階に応じて設定することが可能です。

山形県青少年健全育成条例では、携帯電話の新規契約又は契約変更時に、携帯電話会社等が保護者に対し、フィルタリングの必要性・内容について説明した上で説明書を交付することや、フィルタリングサービスを利用しない保護者は携帯電話会社等に対し、理由書を提出することなどが義務化されました。

インターネットの危険からお子様を守るためには、保護者の皆様が危険性を認識し、正しい知識を持って、お子様と話し合っていくことが大切です。



インターネット利用についての家庭のルールづくりが大切です!!

フィルタリング設定だけでは万全ではないため、家庭内におけるルールをつくり、お子様に必要なアドバイスをしながら犯罪等から守りましょう。

ルールづくりの例

- 利用する時間帯や場所を決める。
- パスワードを保護者が管理する。
- 悩みやトラブルは必ず親に報告、連絡、相談する。
- ルール違反をしたら、一時利用禁止とする。



令和元年度「輝けやまがた若者大賞」受賞者のご紹介

地域活性化に取り組んでいる若者の優れた功績・成果及び地道な活動を顕彰し、さまざまな若者活動を応援し、若者が活躍できる風土づくりの推進に役立てることを目的に創設され、今年度は4団体が受賞しました。

おれまか

高畠町

若者の感性とアイデアを活用した地域おこしのため、町の呼びかけにより集まった若者で団体を設立、平成21年9月から活動を開始。ポップカルチャー好きな若者を対象にした交流イベント『ミコミコちようちん祭』を開催し、会場周辺の店舗を紹介、町の魅力を発信。

また、高畠町出身の童話作家である浜田広介の作品を用い、声優による読み語りをを行うことにより、老若男女を問わず広く周知する機会を創出した。さらに、町や観光協会などの協力を得ながら、雪下ろしのボランティア活動など、町内外を問わず行っている。



鶴岡市

くしびきこしゃってプロジェクト



鶴岡まちづくり塾(事務局：鶴岡市企画部政策企画課)に参加したメンバーが基となり、「地域の元気がなくなりつつある現状を何とかしたい」という思いから、平成26年2月から活動を開始。『こしゃってマルシェ』では、「手作り」をテーマに「農、食、手しごと」の категорияで、地元のものを使い毎回約40店出店。

『森と木プロジェクト』では、「地域の森のこと・木のこと」を身近に感じてもらうことを目的に、木工用品制作とアウトドアクッキングを体験する「森と木のペンキよう会」などを実施している。

テクノ・パラメディック

鶴岡市

潮風害の影響や立地問題に加え、超高齢化といった飛島特有の課題を、鶴岡工業高等専門学校での学修を活かして解決することを目的に、平成22年4月から活動を開始。地域住民と交流しながら、家電製品の修理や訪問出張修理、観光用自転車の修理と保全、観光名所の立て看板設置とベンチの保全、島内美化活動を実施。近年は、ドローンによる空撮と観光用ビデオの制作、『飛島観光用立体模型』の制作により島内外の交流促進及び地域活性化に貢献。



南陽市

BeHereNow 企画



2011年の東日本大震災を契機に有志の作家で結成、平成23年5月から活動を開始した。県内外の芸術家が置賜地方を中心とした計20会場で個展を同時開催する「ARTS SEED OKITAMA2018」を実施し、アートを活用した地域活動を推進。スタンプラリーで置賜地域と山形・上山の一部を巡ってもらうことで置賜地域への観光のきっかけ・機会を創出。地域の企業とアーティスト、クリエイターが知り合う機会を創出した。

県民運動 各地区実践レポート



～特集～ 児童・生徒と地域の大人の対話会

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の一環として、各地区において子どもと大人が一緒になっていじめ防止のために何ができるのかを考える対話会を実施しました。

地域の魅力再発見 ～おらほのまちじまん 2019～

村山地区



11月16日(土)、村山市内の小学校7校、中学校2校の児童生徒、教員、地区民が飯沼プラザに集い「令和版地域の魅力再発見」というテーマでワークショップを行いました。学校や地域で行っている様々な取組みを大人と子どもが一緒に考え、地域の魅力を共有し、今後連携してどのようなことをしていけばさらに良い地区になるのか等、具体的な意見を出し合っていました。大人と子どもが互いに支え合い合うことで、より良い地区、学校にしていこう、心豊かな子どもたちに育てていこうとする思いが感じられました。

村山総合支庁子ども家庭支援課
長谷川義隆・大江昌信

コミュニケーションの 基盤は、相手への思いやり

最上地区



「より分かりあえるコミュニケーションとは」をテーマに、コミュニケーションをとる際に留意していることや対人関係づくりのために努力していることについて意見交換しました。

その中で、表情や態度などの非言語コミュニケーションや相手を意識した話し方・聞き方、語尾や言葉を吟味することの大切さを確認しました。コミュニケーションの基盤は、相手への思いやりという言葉が印象的でした。

高校生と大人が3グループに分かれ、胸の内を素直に発言する高校生の発言や経験を基に真摯に語る大人の姿を見聞することができた対話会でした。

最上総合支庁子ども家庭支援課
伊藤 進

足元の「幸せ」が 「いじめ・非行」の根絶に

置賜地区



置賜地区青少年育成連絡協議会と小国地区青少年育成推進委員会との共催による「対話会」が、9月12日(木)山形県立小国高等学校を会場に開催されました。テーマは、「幸せって何だろう?」「幸せ」の姿には無限の多様性があること、「幸せ」の本質は、何気ない日常に寄り添っているという気づきの中で他者を思いやる豊かな心が醸成され、ひいてはいじめ・非行根絶の土台になると考えています。参加者からは、「熟議」の手法を取り入れて日頃から話し合いを重ねている高校生の企画力やファシリテーション力に支えられて、達成感のある対話会になったとの声が多く届きました。

置賜総合支庁子ども家庭支援課
尾形敏行・齋藤芳昭

「住みたいまち」を語り合い、 さらに深まる人のつながり

庄内地区



9月10日(火)、鶴岡市青少年育成市民会議羽黒地区会議が主催する「はぐる大家族会議」が行われました。地域異世代意見交換会として6回目を迎えた今年度は「住みたいまちについて話そう」をテーマとして、自治振興会役員や青少年育成推進員などの地域の代表者と高校・中学校の生徒代表、合わせて50名ほどが10グループに分かれて意見交換しました。ワールドカフェ方式のリラックスした雰囲気の中で、世代を越えて羽黒のよさや羽黒に無いものを出し合いながら「住みたいまち」を語り合うことを通して、地域の人のつながりが一層深まると思われました。

庄内総合支庁子ども家庭支援課
土田順一・中野智嘉